

裏大小相次第也、按說文、體總十二屬也、靈樞邪客篇人有十二節、張介賓曰、四枝各三節、是爲十二節、說文十二屬蓋卽此、然則云十二屬、猶言四枝、轉爲形質總稱、此所引顧氏說卽是、易繫辭傳易無體、正義云、體謂形質之稱、卽是義、今俗呼加良太是也、不與謂肢爲體同、源君引形體之躰在肢條非是。

〔增補下學集上二體〕肢體

〔伊呂波字類抄太體〕躰五〇タ躰五〇イ 體同

〔一代經律論釋法數三十三〕五體出隨流濱

一右膝 二左膝 三右手 四左手 五首頂

凡禮敬三寶、必須五體投地、所以折伏慚慢、用表虔誠故也。

〔書言字考節用集五體〕體五篇體躰形也、有、形、躰同 體同

〔伊呂波字類抄无體〕身ムククロ 質 躰

〔書言字考節用集五體〕躰說文

〔倭訓栞前編三十一〕むくろ 神代紀に身中をよみ、仁德紀に體をよめり、身囊の義也といへり、軀

殼をいふ也。

〔枕草子六〕人まによりきて、わが君こそまづ物きこえん、まづ〱人の給へる事ぞといへば、何事にかとて、きちやうのもとによりたれば、むくろ〇ごめにより給へといふを、五〇たい〇ごめになんいひつるといひて、又わらふ。

〔枕草子春曙抄六〕むくろごめに 軀籠むくろごめ全身みなこなたへより給へとの心也。

〔塵袋六〕一ムクロトハクビヨリ下ノ名歟

日本紀ニハ體ノ字ラムクロトヨメリ、心クビヨリ下ニアタレル歟、仁德天皇御宇八十九年、飛驒